

Work

地域の仲間と一緒に!

廃校となった旧雲仙小中学校は新たな交流拠点「雲仙BASE」として生まれ変わった。中さんもイベントで講座を開くなど、大活躍。



全国を飛び回りながらも、拠点があるのはホッとします。雲仙は私にとって「いつでも帰ってきていいよ」と言ってもらえる場所になりました。



Refresh

周辺散策

スピリチュアルスポットのひとつ「大黒天磨崖仏」は、お気に入りの場所。



Coworking Space H.U.B UNZEN

2021年8月にオープンした「コワーキングスペースH.U.B雲仙」にて。

Work

豊かな環境でライティング



＼長崎で働く、暮らす。／

Naka Miyako

中都さん



Work

〇旅のコンテンツクリエイター

Area

どこでも

フリーランスのコンテンツクリエイターとして、観光を軸に記事作成や撮影をするほか、語学力を生かして、通訳・翻訳、インバウンド支援など多岐にわたって仕事をしている中都さん。彼女の暮らしは、

旅をしながら暮らすことで私らしくいられる。



まさに家を持たない「ノマド」生活。スーツケース一つで全国を飛び回りながら、仕事をしている。「場所を移動することで新しい人たちと出会い、多様な価値観を知る。それがこの暮らしの魅力です。東京や世界の都市で最先端のものに触れるとアイデアも生まれます。そのアイデアを地方に持って来ることができればいいですね」。

取材当日も「ここに来る前は房総半島を一周し、その後、東京、金沢、大阪...と回っていました」と話す中さん。しかし全国を転々としながらも、実家のある大村市をはじめ、いくつかの拠点もあるという。その一つが温泉地である雲仙だ。中さんは雲仙を「ポテンシャルの高いまち」と話す。「か

つて外国人の避暑地だったという歴史もそうですが、雲仙には実はスピリチュアルスポットが多く、人を癒やす力があります」。そうした雲仙の魅力を全国、そして世界の人に伝えたいと、彼女は情報発信をするうちになつた。「活動する中で仲間もでき、雲仙は私にとって居心地の良い場所になっています。最近では廃校となった旧雲仙小中学校を新たな交流拠点にするという活動にも関わっているんです」。

フリーランスになる前、中さ

んは海外や東京でも暮らしていた。仕事を辞め長崎に戻ってきたのは、少しのんびりするため、すぐに県外へ出るつもりでいたという。「でも自分なりに長崎のことを勉強してみると、知れば知るほど面白いまちであることが分かり、長崎の仕事をしたいと思うようになりました。自分が育った場所がこんなにも魅力的な土地なんだと、世界を見て改めて気付けたんです」。「旅するように暮らしたい」と話す中さん。彼女の旅は、まだまだ続いてゆく。

Relax

おしどりの池

「コワーキングスペースH.U.B雲仙」は「おしどりの池」を望む高台に位置する。おしどりの池も、大好きな場所のひとつだ。

